



森ボラ 通信

第86号 2009年7月20日発行 **NPO法人北海道森林ボランティア協会**

URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 : Fax:241-8308

E-mail : hshinrinv2002@nifty.com

■ トピックス

◆支笏湖「北海道CGCみどりとこころの森」づくり正式スタートする

6月11日(木)石狩森林管理署内に於いて、森ボラ協会は(株)北海道CGCが設立した「北海道CGCみどりとこころの基金」とCGCの森づくりについての覚書を締結しました。

それに先立ち石狩森林管理署と(株)北海道CGCとで「北海道CGCの森づくり」の協定書が調印され、これにより、三者が協働で平成16年9月の台風18号で荒廃した森林17.82haを「CGCの森」として7年かけて復興する事になりました。

式には石狩森林管理署から、瀬戸口署長、杉村調整官。(株)北海道CGCから、虎谷常務、谷口部長。森ボラ協会からは荻田代表幹事、棟方理事、市山事務局が出席しました。

このニュースは北海道新聞の6月12日付朝刊で紹介されました。「北海道CGCの森づくり」は我が協会が主役をなし総力を挙げての森づくりですので、会員の積極的な参加を期待します。

(記、市山事務局)



◆ 活動報告 7月3日～4日支笏湖 「道新ぶんぶんの森」植樹祭(参加者延 10名)

7月4日(土)北海道新聞・道新札幌八日会主催の植樹祭が実施され、支笏湖国立公園に隣接する国有林・胆振東部地区1355林班で実施された。台風被害の復興事業に賛同された60数名の家族連れや夫婦での参加者によって250本のトドマツが植樹された。

森ボラでは前日から植樹地の準備や当日の植樹指導を実施、今後は植樹後の活着観察・調査・補植などを実施しながら、秋に計画されている植樹祭に向け事業を支援してゆく。今回の植樹は時期的に遅く、活着が心配されるが、現在のところ昨年より雨量が多く高活着率を期待したい。(記、事務局)



◆ 40年昔の思い出を辿る 『赤沢自然休養林を訪問して』

概要

『赤沢自然休養林』は長野県南西部木曾郡上松町に位置し、当地の木曾ヒノキは日本三大美林の一つとして青森ヒバ、秋田スギと並び称されている。自然休養林の面積は728ha、標高1080m～1570m、平均樹齢300年、平均樹高約30m、胸高直径50cm～80cm、ha当り本数240本。

歴史

木曾ヒノキの存在は平安時代から知られ、伊勢神宮、円覚寺、銀閣寺などに使われ、徳川時代には江戸城改築や名古屋城造営に大々的に伐採したため次第に衰退した。尾張藩では1665年大改革を断行し、残された美林を留山(とめやま)、木曾五木を停止木(ちょうじぼく)としてヒノキをはじめとする森林の保護育成を進めた。現在見られる赤沢の木々は、この頃芽を出したものが多い。明治期の木曾の山林は、宮内庁御料局が管理し、戦後は皇室財産解体令によって国有林に移管され現在に至っている。

観察

平成16年に設立されたNPO法人「木曾ひのきの森」の上條さんが午後1時から3時過ぎまで小雨の降る中を熱心に案内してくれました。「木曾ひのきの森」は三十数名で構成され、赤沢自然休養林をベースに、森林資源の大切さ、素晴らしさを守り伝える活動を行なっている。

まず、木曾五木のヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロ、コウヤマキの見分け方を実際の枝葉を使って教わりました。この五木は葉裏の気孔の白い模様が異なる事から判別が可能でしたが、実際の樹木を見ての判断はなかなか難しいものでした。



伊勢神宮のご神木を切り出した昭和60年の切株には、屋根が架けられ丁寧に保護されていた。直径80cm程の2本のヒノキが4,5m離れて対に、手斧で伐採され、3ヶ所で支えられた切り跡も明瞭に観察出来ました。ご神木の採取は、20年に一度行なわれ、山での立木状態で1本が数千万円以上の値が付くことも希では無いとのことでした。

数百年前のヒノキの種が倒れた木や切株の上に着床し、根上がりと呼ばれる木の根元が大きな穴の空いた状態になっている倒木更新、2本のヒノキが根元から同一の木となり、数の上からは2本になった状態も説明を受けました。異なる種では一体にならないとのことでした。

おわりに

散策路の途中では、沢の対岸からこちらをじっと見ている日本カモシカに出会い、自然の豊かさを感じました。最後になりましたが、開園前の準備でお忙しい中、快く受け入れていただいた木曾森林管理局、NPO「木曾ひのきの森」の関係者の皆様に深く感謝します。(記、樫棒)

出席者：市山・酒井・佐野・杉本・高野・津金・西野・山中・和田

1. お知らせ・確認事項

- ①2009 年度 6 月度「木の里親募金」に 2 名から応募いただきました。また、協会活動として 4 名から支援金届いています(何れも協会員＝工藤光夫さん夫妻・菊池敏浩さん・斎藤正幸さん・木戸和子さん・三和勉さん)。
- ②新入会者紹介＝須田洋さん(6 月 19 日付)・千歳市
- ③株北海道 CGC「北海道 CGC みどりところの森づくり」の活動が本格化、7 月 1 日に例会で事業内容の説明が実施されました。7 月 3 日～4 日には毎木調査が実施されました。現行の自然幼樹・稚樹を保護し多様性の森を育てる事業が開始されます。
- ④7 月 4 日、北海道新聞社「道新ぶんぶんの森」も植樹祭が実施され、技術協力をスタートさせました。今後、支笏湖周辺では 5280 林班(協会自営)・5218 林班(7-11 みどりの基金)・5460 林班(コンサの森)・1355 林班(道新ぶんぶんの森)と 5456 林班(CGC の森)を併せ 5 事業の育林を実施して行く事になります。奮って参加をお願いします。
- ⑤公共交通機関利用者の参加を促進するため会員相互の乗合せに御協力をお願いし対応して行きます。公共交通機関利用者は作業参加申込用紙で事前連絡と集合場所の時間厳守をお願いします。

活動地	集合場所	乗合せ車協力者
南幌町・野幌公園	JR・SUB 新札幌 No. 9 出口	西野・酒井・棟方・市山
当別町青山ヤナギ	JR 当別南口	西野・酒井・高野
アイケンの森・澄川・支笏湖	SUB 自衛隊前	釣井・津金・高野
リンゴ園	SUB 琴似・静和病院駐車場	津金・和田
西野第 2	SUB 発寒南	津金・西野・和田
有明第 2	SUB 福住・IY 駐車場前	市山・西野

- ⑥活動後の使用道具は各自責任を持って後片付けを実施し、刃物を研ぐ時間を確実に作って作業を終了する事とします。
- ⑦リンゴ園摘果作業は雨天で遅れが発生しました。計画外の応援要請に対応していただき遅れの分はカバー出来ました。有難う御座いました。(記、事務局)

◆ 7 月 9 日 幌南小学校 6 年生 90 名 総合学習の時間 酒井 1 名

7 月 3 日は雨で幌南の森での活動が中止となり幌南小学校の視聴覚教室にてパワーポイントで話をしてきました。提供した巣箱 50 ケの半分の 25 個に絵を描いて 8 月 25 日に森に掛け、残りは来年掛けるそうです。「この巣箱は株式会社ニトリの助成により製作したものです。」

提供話題 1：なぜ巣箱 幌南の森は戦後伐られて木が細い。洞がないので巣箱をかけないと小鳥は卵を生めない(鳥の話は森の中で森ボラ理事の高野さんが実施)。

提供話題 2：葉っぱの話 表と裏の見分け方・葉序・松ぼっくりのふしぎ。

提供話題 3：世界の森林 森林減少を学習中との事で熱帯林での薪ドロボーなどの写真を見せた。

50 分の話の後、質問が 30 分も続いた。「ボランティア」とは家の人から言われる前に「自発的に」茶碗を洗ったり掃除したりすることでやると気持ちがいいからやってみると言ったらやってみるといった子がいた。将来森林の仕事がしたい子が 1 名いた。(記、酒井)



■ 活動履歴

活動日	行 事	参加人数	活動内容
7月17日(金)	りんご園	3名	摘果
7月16日(木)	りんご園	9名	摘果
7月15日(水)	りんご園	0名	雨天中止
7月14日(火)	りんご園	7名	摘果
7月13日(月)	幹事会 13:30	9名	定例
7月11日(土)	澄川	18名	製材・草刈・木道補修
7月10日(金)	りんご園	0名	雨天中止
7月9日(木)	りんご園	10名	摘果
7月7日(火)	幌南の森	8名	遊歩道整備
7月4日(土)	りんご園	2名	摘果
	支笏湖	17名	道新ぶんぶんの森植樹祭・CGCの森毎木調査
7月3日(金)	りんご園	3名	摘果
	支笏湖	18名	CGCの森毎木調査
7月2日(木)	りんご園	7名	摘果
	アイケンの森	7名	笹刈
7月1日(水)	リンテージプラザ	21名	例会
6月30日(火)	澄川	10名	木工・杭製作
6月29日(月)	西野第二	6名	ニセアカカ萌芽切
6月27日(土)	澄川	11名	除伐
6月26日(金)	当別	2名	札幌工科専門学校指導
	アイケンの森	9名	薪作り
6月25日(木)	りんご園	6名	摘果
6月24日(水)	野幌森林公園	8名	草刈
	りんご園	6名	摘果
6月22日(月)	澄川	15名	杭作り・小屋補修
6月20日(土)	りんご園	12名	摘果・伐木搬出作業
6月19日(金)	りんご園	8名	摘果
6月18日(木)	有朋第二	7名	草刈

■ ひとこま

◆ 活動報告 6月29日 西野第二活動地

札幌市西野第二環境林は2004年の台風でそれまで優勢樹種だったニセアカシアが殆んど倒伏した。郷土樹種の稚樹幼樹救出作戦として倒木整理とニセアカシアの萌芽切りを続けてきた。

“鬱蒼とした森にニセアカは侵入しない”との言葉はいま実証されようとしています。

●写真上:2005年6月16日撮影:根倒れしたニセアカシアを根元近くで切り離し、枝は切り整頓した。下敷きになっていた稚樹がわずかに顔を出している。

●写真下:2009年6月29日 同じ場所を撮影:笹刈りカマより高くなったミズナラとヤチダモがすくすく育っている。

ニセアカの根株も遂に枯れて萌芽も出なくなり、萌芽刈りの作業も今年は5人で実施、半日あまりで終了した。隣接の琴似発寒川の河川敷にはニセアカの母樹がたくさんあるが、イタドリの助けも借りてこれだけ地表が暗くなればもうニセアカシアは発生していない。(記、酒井)

